

当日のカワハギ仕掛け

●Tackle Guide
カワハギ釣りでのハリとハリスについては悩むところだ。以前は吸い込み系の小バリ&細めのハリスを多用していた。尺ハギグラスにハリを折られたり、ハリスを切られたりして何度もやり直し、個人的なオススメは、太軸のハリと3号ハリスのセットだ。小型の釣り意識すると、小バリと細ハリスになりがちだが、小型を釣ってもリリースとなる。数釣り競技ではないので「小型はいらない」と居直るのも悪くないです。

1人……。
ちょうど同じタイミングで、右トモ寄りでは肝パンの良型が釣り上げられた。カワハギはいるんだよね。エサも取られるし……。
すぐ後に2枚目をゲットした。これはユラユラと躍らせながら落とし、着底後も躍らせ続けるとコンコンと食ってきた。そのパターンで3枚目を追加。
その後も同じパターンで誘うが、エサに触るものの食わ

あの手の手で

やっとのことで4枚目を上げたのは10時過ぎだった。ややたるませた状態で仕掛けを躍らせ、スツツと聞いたら食ってきた。まずまずの肝パンだ。
風の予報が少し早まり、南西の強風が吹き始めたのはそのころだった。
あまりにもアタリがないので、軽くキャス

せられない。やっかいなケイスタだ。
江ノ島沖の根を拾って流していた船長は、8時には腰越沖へと船を走らせた。
たまに船中でカワハギが姿を見せるが単発だ。
あちこちを探るが、全くエサさえ取れない状態が延々と続く。

▼皆さん手を変え品を変えカワハギとの駆け引きを楽しんだ



トして仕掛けを斜めに躍らせたら激しく食ってきた。25センチ超えのまずまずの型だった。これで、やっとなら5枚。
このパターンで釣れ続けたも……と思ったのだが、いかんせん風はどんどん強まって波も大きくなり、船が上下するようになってきた。ミヨシでは立って釣るのも無理。
こうなると、繊細な釣りなんてとても……。エサがきれいになくなっていたりするのだが、アタリなんてサッパリ分からない。
結局、そんな状態のまま11時半に早揚がり（本来は13時半納竿）となった。
釣果は一人0〜5枚。船長は良型を狙って流したのだが、

強風と早揚がりの悪条件でこのところなかった悪い釣果となつてしまった。まあ、致し方ない。
別船は1〜16枚だったようだ。何度かよい流しがあつたとのこと。
翌日は6名乗船して4〜16枚。30センチ、28センチ、2枚、27センチ、26センチなどが交じって10枚超えが4名と、本来の姿に戻つた。ひよつとして、僕の日ごろの行いが悪かつたのかな？
よく考えてみると、1つや2つくらいは悪い行いがあるかもしれない。
だとしたら、一生懸命に流してくれた船長にゴメンだよな。うーん……過去にも取材日だけが貧果だったということがあつたけれど、今回はまさにソレだった。
いずれにしても、良型交じりでトップ20枚以上も普通という状況が続いている

は点々と根がある。だから、状況によって探るポイントは無数にある。
7時半過ぎに、ちよつと様子見で竿を出してみた。
オモリを底に着けた状態で仕掛けを躍らせて止め、ゼロテンションでアタリを待ってみる。
何度も繰り返していると、穂先が微妙に上下したりする。



▲リリースサイズはほとんど交じらなかつた

江ノ島沖のカワハギ釣りで、ぜひチャレンジしていただきたい。
僕も改めて出かけなくっちゃね。

●船宿information
相模湾湘南片瀬港
萬司郎丸
☎0466-23-8309
(詳細は巻末の情報欄参照)
▶料金=料金=カワハギ乗合一人8000円(水付き)、アサリのむき身1200円
▶備考=6時半出船。ほかマダイ、アマダイへも出船



根里 洋平 船長



▲20センチオーバーの良型は引き味も満点

シーズン当初は心配な状況だったカワハギ釣りだが、途中からグリーンとヒートアップ。相模湾の江ノ島沖でもトップが20枚前後の安定釣果が続いている。それも30センチ前後の肝パンがある程度交じるとあっては、いやがうえにも気分は高まる。
湘南片瀬港の萬司郎丸に出かけたのは12月19日の早朝だ。前日は2隻出船してトップは19枚と16枚。30センチ、28センチなど大型が何枚も出ている。当日も2隻出船して、まだ夜

も明けやらぬなか、次つぎと釣り人が乗り込んでくる。若い人のグループや女性も目立つ。カワハギ釣りという昔は渋いベテラン好みの釣りというイメージがあつたが、今はそうでもない。
僕は1号船の左ミヨシに釣り座を構えた。船着き場で氷とエサ(ポトル入りの冷凍むき身)を受け取り、準備完了。定刻の6時半に18名を乗せて出船。まだ薄暗い中、港を出てすぐ目と鼻の先の江ノ島沖へと走つた。


触りはあれど曲がらぬ竿先 食い渋るカワハギは手ごわい

●相模湾湘南片瀬港発→江ノ島へ腰越沖 本誌ABC(神奈川)平林 潔 Kyoshi Hirabayashi

知得! Tips and Tricks
ガイドに道糸を通すべし

以前、本誌でラインをガイドに通してから釣行するか、あるいは船上で準備するかという調査があつた。僕は、その時ときによって違つていた。けれど今回は「絶対に糸を通してから釣行すべき」と確信。歳のせいも、まだ辺りが暗い中でカワハギ竿の小さなガイドに糸を通すのはとても大変な作業だった。情けなくて涙が出てきた。まさか出船前にストレスだらけになるとは(涙)。

▶シニアの皆さん、日の出時刻が寒い場合は自宅にタックルをセットしてからお出かけを



まずはゼロテン
問題はその後だ。食いが立つていけば続けてバタバタとくるはずだが、まったく後が続かない。船長とも話したが、「昨日までと違って、カワハギも何かが気に入らないみたいだね」という様子だ。
もともと江ノ島へ腰越沖に

カサカサと触っている感触はあるのだが、何をどうしても食い込まない。
それでも、小型ながらも1枚目をキャッチ。いやあ……手ごわいなあ。
微妙にエサを触っている感触は、慣れていないとなかなか感じ取れないかもしれない。同じパターンでもう1枚掛けたが、途中でハリ外れ。う

●ひらはやし きよし/わが家の7匹の猫、下痢気味だったので病院へ。2回に分けて運ぶのも大変だったが、医療費にも目まいがした。